

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年12月22日

【評価実施概要】

事業所番号	3091500011
法人名	有限会社ささゆり
事業所名	グループホーム有田ささゆり
所在地	和歌山県有田市宮原町新町225番地 (電話) 0737-88-8882
評価機関名	社団法人日本社会福祉士会和歌山県支部第三者評価委員会
所在地	和歌山市太田421-1
訪問調査日	平成19年12月22日

【情報提供票より】 (19年12月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤11人, 非常勤5人, 常勤換算9.1人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	(有) (200,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		950 円	

(4) 利用者の概要(12月9日現在)

利用者人数	15 名	男性	2 名	女性	13 名	
要介護1	4	要介護2	6			
要介護3	1	要介護4	2			
要介護5	0	要支援2	1			
年齢	平均	73.5 歳	最低	68 歳	最高	85 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	生駒内科医院、宮井歯科医院
---------	---------------

社団法人日本社会福祉士会和歌山県支部第三者評価委員会

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者はゆったりとした空間の中、家庭的な環境で支援されている。2ユニットとなっているが、ユニット間の職員や利用者の行き来ができるようになっており、利用者間のコミュニケーションや職員の連携がとれている。ホームは住宅地にあるが、窓の外にはミカン畑がある等、季節を感じられる環境にある。また、隣家との間にフェンスや塀などを設置しないことで、圧迫感を無くし、地域にとけ込んだホームとなっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての評価となる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	定期的に行われるユニット別スタッフ会議及びホーム全体の会議により、各職員が自己評価項目に意見を出しながら作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族、自治会長が出席しているとともに、行政担当者出席への働きかけを行なっている。現在はホームの行事等の報告にとどまっている。また行政も頻回に訪れ、行政との連携がよくとれている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	請求書送付時に「ささゆりだより」を発行しホーム内の様子を家族に知らせている。また意見箱を設置し家族の意見を積極的に取り入れる工夫を行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の保育所の訪問等により地域との連携を積極的に行っている。また、地域の掃除や祭り等にも積極的に参加している。一方日常の外出は車で遠出が多く、近隣への散歩等の外出は少ないため今後働きかけが必要と思われる。

2. 調査報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念をつくり、管理者を始め全職員がその理念に基づいて支援を行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、日々の業務、会議等で理念を共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の清掃活動や祭り・花火大会等に参加交流している。 また、中学生の体験学習の受け入れや、保育所の訪問等も積極的に受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はユニット会議、全体会議等により全職員が関わり実施した。	○	今回初めての評価となるので、自己評価及び外部評価を元にさらなる改善に取り組んで行くことが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、自治会長が出席しているとともに、行政担当者出席への働きかけを行なっている。	○	現在はホームの行事報告等を行っているが、今後はサービスの内容に踏み込んだところまでの検討が期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターへの相談及び、行政担当者の訪問が頻回に行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	請求書送付時に月1回発行の「ささゆりだより」を同封して行事などを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、意見や要望などを受け付ける仕組みがある。 家族もなじみの職員への気軽な相談ができる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職によるユニット間の異動はあるが、日頃よりユニット間の連携を密にして一体的なケアを行い、利用者への影響を少なくしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	週1回のユニット会議、月1回の全体会議において、内部研修を実施している。また、外部講師による研修も実施している。	○	職員の外部研修への参加推進への取り組みにより専門的なケアの向上を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内数カ所のグループホームとの情報交換を行っている。	○	グループホーム協会への加入により、他のグループホームとの交流や研修への参画等によるサービス向上が期待される。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時、家族へのアセスメント聞き取りなどから本人の生活史等を詳細に把握している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が一緒に過ごしなが、親しみある関係を構築している。また、食事を一緒に摂るなど生活を共にするような支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が発した思いや要望などを、職員がすぐにメモに書き取る事により会議等で共有し、些細なものまで把握し、支援に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は日常のメモ、アセスメント、ユニット会議等で作成している。	○	ホームの職員だけでなく、家族や必要な関係者からの意見を反映した介護計画の作成が期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ユニット会議により、利用者の状態がよく把握され、詳細な分析により定期的な見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診時は原則家族が行うようお願いしているが、遠方であったり、本人または家族の希望や都合によりスタッフが対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前のかかりつけ医は本人の希望により継続して受診を続けることができる。また、かかりつけ医がいない場合は近くに協力医師がおり、月2回の往診を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者と職員は、重度化や終末期に向け、理念を共有している。本人や家族とはあまり共有はできていない。	○	本人や家族等との重度化した場合や終末期のあり方について日頃から共有すること、医療職の確保によりその実現に期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員採用時にはプライバシー保護に関する誓約書をとっている。また部屋に入室する際ノックする、個人情報のFAX禁止、暴言等の禁止するなど、プライバシーの確保を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・入浴等、一人ひとりのペースに合わせて支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けを行っている。 献立については利用者の希望を取り入れたものを作成している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて、時間や入浴方法等支援している。 個浴による入浴を行っており、介助が必要な利用者には職員が適宜対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭の草引き、畑仕事、ぬりえ、パズル、レース編み、計算ドリル等、一人ひとりの生活歴や力にあわせ支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブ、買い物、温泉等なるべく外に出て気分転換できるように支援している。	○	車を使っでの遠出だけでなく、近所の散歩等、地域との交流も含め気軽に戸外に出て行くことを期待する。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを実践している。また、敷地をフェンスや塀等で囲まないようにし、圧迫感を無くしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月避難訓練を行っている。避難訓練時には近所の協力を得ている。 災害時のために、水・米・缶詰等を備蓄している。 年2回消防署と合同の避難訓練を実施し、救急救命方法の研修を実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用することにより、水分摂取量の把握を行っている。 献立表により栄養バランスが偏らないような支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けや冬至にゆず湯に入る等の生活慣習を取り入れ、居心地の良い支援を行っている。 掃除チェック表を活用し、清潔な環境整備を行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのある家具や置物・ベッド、テレビを持ち込んでいる。 また、部屋のレイアウトも自由に行うことができる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。